

# やつおもて

第10号 (2016年1月)  
編集発行：和田公民館  
協力：公民館運営推進委員  
電話：(45-1918)  
eメール:wada-k@ph-hamada.jp

## ～和田地区いろいろ見て歩く記～



と～しのは～じめの  
ためし～とて～



お～わりな～きよの  
めでた～さを



新年明けましておめでとうございます。皆さん新しい年をどのようにお迎えでしょうか？昨年は世界を騒がすニュースが沢山ありました。今年は嬉しい事が1つでも多くなりますように心から願っています。(つぬ)

今回は重富瓦窯跡について紹介します

### 《重富瓦窯跡》

やつおもて 19号墳のすぐ下で、奈良時代頃の瓦の窯跡がみつかりました。地下式の登り窯で、全長が5.5mあります。瓦は、「燃焼室」という焚口につづいて炭を焚いた部分に溜まった状態で出土しており、いずれも割れ足り、焼き具合の悪いものばかりです。大半が平瓦で丸瓦も少々あるようですが、軒瓦は出土していません。平瓦の大きさは、推定で長さ35cm、幅25cm程度と考えられます。

この窯跡で焼かれた瓦は、隣接する重富廃寺発見の瓦類と、その製法技法が全くおなじであることから、同寺に供給されたものといえます。窯跡の調査だけではその操業年代を特定できませんが、重富廃寺発見の軒丸瓦は奈良時代のものといわれています。奈良時代の瓦は、官衙(かんが)や寺院の屋根を葺くもので、当時の一般の家々では使われていませんでした。奈良時代のころの瓦窯跡の発掘例は、島根県では浜田市「石見国分寺瓦窯跡」について二例目です。

また、石見地方の古代寺院は重富廃寺のほかに、今のところ浜田市の国分寺・国分尼寺跡、下府廃寺、大田市の天王平廃寺があるだけです。やつおもて古墳群が築造された時代から重富遺跡や重富廃寺が存在した時代には、当地は石見山間部でももっとも政治的、文化的に中心地であったことがうかがえます。(1990年島根県教育庁文化課資料から抜粋)

★官衙(かんが)…役所・官庁のこと

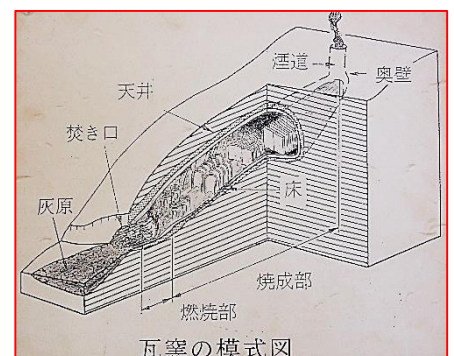
つぬです！



重富廃寺出土瓦



重富遺跡 瓦窯跡出土瓦  
(重富廃寺で使われた瓦)



瓦窯の模式図

続いては和田地区に伝わる伝説のコーナーです



# 四十九(しじゅうく)



—「防六をあおぎて」より—

和田に「すべり坂」という坂があります。

和田の町から今市方面に行くのに「胴切り峠」を越す訳だが、まずその前にこの



「すべり坂」を登らないと今市に行けない昔があった。(今の道路の無かった昔の事です)

「すべり坂」はとても急な坂で今の和田大橋の下付近です。

「すべり坂」とはよく言ったもので途中で足を滑らせてもしたらそのまま白角川へ転げ落ちる。昔、同心がお蓮の首を転げ落としたように「ポチャン」だ。

だから気を抜かないよう、体に力を入れ緊張させてゆっくり、ゆっくり。とにかくこの急坂、粘土質の赤土なので雨上がりなどは特に大変だ。登る時も下る時も、ツルツル、ズルズルすべってね。なので、足に力を入れて踏ん張って・・・すると尻から尻が出る訳だ。皆それぞれに尻がプップ出る。今で上品に言うなら「オナラ」だがこれが登り下りに出る。老若男女誰もかも、かっこも何もかまやあせん。足を踏ん張って四つん這いになって「カニ」のように、横ばいになって登り下りした。ちなみに浜田にも同じような坂があってそこを「へこき坂」という。浜田はそのままだが、この和田の坂は「しじゅうく」という。「四十九」・・・つまり、四重苦勞して登り、四苦八苦して登り下りをした、この坂を「しじゅうく」というようになりこんな地名が生まれたのです。(文・絵 佐々岡健次)



つめも近くだからよく知ってるけど  
和田の難所にふさわしい地名よね～！

## お 礼

この度、重富の岡本商店様を通じて、「一般社団法人 島根県LPガス協会 青年部」様からガスコンロ1台を湯沸し室に寄贈して頂きました。大事に使わせて頂きたいと思います。誠に有難うございました。 和田公民館 館長

今回の8回目で最終回となりました。和田地区の皆さんにもっと沢山の八戸川の歴史や流域住民の生活文化など紹介すべきでしたが筆不精の私には十分な知識と表現力がなく申し訳なく思っています。平成15年を省みますと、近隣の河川ではアユ漁が不漁で八戸川だけが良好であった為、多くの釣り人が押しかけ釣り場がなく苦情の出ることもありました。その良好な原因は定かではないのですが、水質の良さと健全な稚アユの放流が重なったものと思われます。八戸川は急流で水質が良く川魚の成育に適しており昔からアユの身がしまり香りが良くうるかに砂が含んでいない



どんこ このあたりでは「ごんぼう」と呼ばれているのは何故だろう？

など他の河川のアユよりも好評を得ており現在もいづらか続いているものと思われます。人間の生活文化の向上により生活排水を河川に放水することによる水質悪化が心配されていましたが、数年前より下水処理場が設置され水質悪化

はある程度防ぐことになりました。が、今度は処理場から排出される終末処理水に塩素が少量含まれており人間には害はないと言われていたのですが、魚介類には悪影響が出ており、数年たてば八戸川から魚影が見えなくなる恐れがある為、過去5年間島根県知事に内水面漁業共同組合連合会を介して陳情してきました。しかし、今日までこれといった対策や回答はなされていません。

八戸川は流域住民にとってかけがえのない川であり、昔から川瀬の音の変わり具合で天気の変化を予測したり、多くの田畑に水を与え、そして川魚を捕って食べることによって唯一の蛋白源とするなど我々の生活の一端を担ってきています。そのため母なる川と愛され親しまれてきたこの八戸川を今後とも変わることなく河川環境を保たなければならないと深く感じ入るところであります。その為には、

- 1、アユが育つ川づくり
- 2、子ども達が喜んで遊べる川づくり

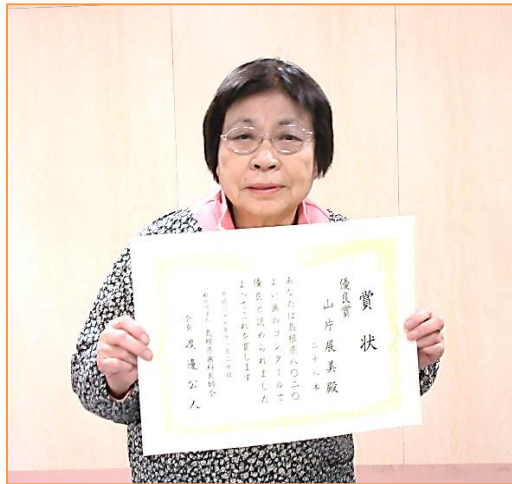


せむし 魚釣りの餌使われる。トビゲラの幼虫

の環境整備が必要であり、組合員一同努力しているところでもあります。

皆様方の深いご理解とご協力を心からお願い致しまして八戸川よもやま話に幕を引かせて頂きます。(文・榎本泰弘)

# ありがとう その一言で 友達に



山片展美さん、おめでとうございます！

島根県で80歳で20本の歯を保とうという「8020（ハチマルニイマル）運動」の普及啓発を目的として実施された8020よい歯のコンクールにおいて山片展美さん（重富）が表彰されました。現在歯数28本ということです。良い歯のおかげで固いものでも何でもおいしく食べることができるそうです。歯の健康、気をつけたいですね！



## 館長の今月の故事・ことわざ

### かろうせん 夏炉冬扇

時期はずれで役に立たないもののため。夏の囲炉裏や、冬の扇は無用の長物であることから「冬扇夏炉」ともいう。同じような意味で「寒に帷子（かたびら）土用に布子」などがある。（布子は綿入れのこと）



## 次は ~つねちゃんのこんなのやりましたコーナー~

12月13日（日）寄せ植え教室を開催しました。テーマは「お正月の玄関を彩る寄せ植え」です。今回は男性が4名も参加して下さりこれからの活動の広がりが期待できそうです。



## あ と が き

いよいよマイナンバー（個人番号）制度が導入されました。マイナンバーカードの申請は義務ではありません。マイナンバーカードがなくても、通知カードと「本人確認できるもの」があれば手続きを行うことができるそうです。便利な制度なのでしょうが、マイナンバー制度に便乗した詐欺にも注意が必要だそうで、細かいことが苦手な私には少々不安です。「わからないことはすぐ誰かに相談をして自分の身を守る」気を付けなければと思う日々です。（美）